君は「最後の晩餐」を知っているか (1)

布施 英利

3 「モナ・リザ」や「最後の晩餐」など、レオナルドの絵は、それまでの絵画とは違う、全く新しいものだった。彼は、人体の科学である「解剖学」や、空間の科学である「遠近法」、それに光の科学である「明暗法」などを研究し、新しい絵画を生み出したのだ。

4 「科学が生み出した新しい芸術」などというと、どこか難しいと思うかもしれない。しかし、イタリアに行って「最後の晩餐」の前に立ったら、どう思うだろうか。私は、この絵を見たとき、なぜか「かっこいい。」と思った。それが名画というものなのか。すばらしい絵の前に立つと、理屈ではなく、まず衝撃がやってくる。それから、じっくりと分析する。分析もまた、名画を味わう楽しみの一つである。

5 「最後の晩餐」は、イタリアの北の町、ミラノにある。サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院の食堂の壁画として、十五世紀末に描かれた。高さ四・二メートル、幅九・一メートルもある巨大な絵だ。

（中略）

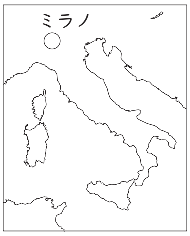
9 中央にいるのがキリストである。彼は、弟子の一人に裏切られ、やがて磔になる。ここに描かれている場面は、裏切りがある、という予言を耳にした弟子たちが驚き、ざわめいているところだ。明日、キリストは磔刑になる。だから、これが「最後の晩餐」なのだ。

10 弟子たちの動揺は、手のポーズにも表れている。たくさんの手が描かれているが、試しに、その一つ一つのポーズを君もまねてみよう。手のポーズは心の動きを表すが、ここにはいろいろな手があり、いろいろな心の動きがある。驚き、失意、怒り、諦め……。まるで手のポーズの見本帳である。それは、手に託された心の動きの見本帳でもある。

11 レオナルドは、どうしてこんなにもうまく、いろいろな手を描くことができたのだろうか。実は、彼は人体の解剖を通して骨格や筋肉の研究をし、人の体がどのような仕組みでできているかを知り尽くしていた。だから、手だけでなく顔の表情や容貌も、一人一人の心の内面までもえぐるように描くことができた。

（3〜11は教科書本文における形式段落番号を表します）

「最後の晩餐」レオナルド・ダ・ヴィンチ



確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の科学に当たるものとして本文中に挙げられているものを、それぞれ三字で書きぬきなさい。

①人体の科学

②空間の科学

③光の科学

(2) 筆者は、「最後の晩餐」を見たときにまずどのように思ったか。適当なものを選びなさい。

ア 新しい　**イ** どこか難しい　**ウ** かっこいい

(3) 「最後の晩餐」に描かれているそれぞれの「手のポーズ」は何を表しているか。本文中から四字で書きぬきなさい。

(4) 「最後の晩餐」が、さまざまな手のポーズが描かれた絵であることを、筆者はどのように表現しているか。解答欄（かいとうらん）に当てはまる言葉を本文中から三字で書きぬきなさい。

まるで手のポーズの　　　である。

(5) 「最後の晩餐」の説明として適当なものを選びなさい。

ア 古典的な技法のみを用いて描かれた伝統的な様式の絵画で、弟子たちがざわめく場面が表現されている。

イ 修道院の食堂の壁画として十五世紀の末に描かれ、予言を耳にした弟子たちの様子が表現されている。

ウ 予言を聞いた弟子たちの落ち着きはらった様子が、さまざまな手のポーズにも表現されている。